

大航海時代とヨーロッパ人の来航

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

今日の問い

ヨーロッパの人々はなぜ海に乗り出し、日本に何をもたらしたのだろうか。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 大航海時代の始まり

航路の開拓

コロンブス

1492年、スペインの援助で西インド諸島に着いた。

バスコ・ダ・ガマ

1498年、アフリカ南端を回りインドに着いた。

マゼラン

船隊が世界一周を達成。本人は航海の途中で死亡。

15世紀、ヨーロッパの国々は、アジアの香辛料などを直接手に入れようと、新しい航路を求めて海に乗り出した(大航海時代)。1492年、スペインの援助を受けたコロンブスは、アメリカ大陸に近い西インド諸島に着き、1498年、ポルトガルのバスコ・ダ・ガマは、アフリカ南端を回ってインドに着いた。

スペインの援助を受けたマゼランの船隊は、1522年に世界一周をなしとげ、地球が丸いことを確かめた。スペインはアメリカ大陸に進出して、メキシコのアステカ王国や、アンデス山地のインカ帝国をほろぼし、銀などの富を手に入れた。ポルトガルはアジアに拠点を広げた。

年	人物	できごと
1492	コロンブス	アメリカ大陸に近い西インド諸島に到達
1498	バスコ・ダ・ガマ	アフリカ南端を回ってインドに到達
1522	マゼランの船隊	世界一周を達成

2 日本とヨーロッパの出会い

鉄砲とキリスト教

てっぽう

鉄砲

1543年、ポルトガル人が種子島に伝えた武器。

フランシスコ・ザビエル

イエズス会の宣教師。1549年にキリスト教を伝えた。

なんばんぼうえき

南蛮貿易

南蛮人との貿易。生糸や鉄砲を輸入し、銀を輸出した。

1543年、ポルトガル人を乗せた中国船が種子島(鹿児島県)に流れ着き、鉄砲が伝えられた。鉄砲はやがて国内でもつくられるようになって戦国大名の間に広まり、戦い方や城のづくりを大きく変えた。

1549年には、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが鹿児島に来て、キリスト教を伝えた。ポルトガル人やスペイン人は南蛮人とよばれ、南蛮貿易で日本は生糸や鉄砲などを輸入し、銀を輸出した。貿易の利益も求めて、信者になるキリシタン大名も現れた。

問いへの答え

15世紀、ヨーロッパの国々はアジアの香辛料などを直接手に入れようと、新しい航路を求めて海に乗り出した。コロンブスやバスコ・ダ・ガマ、マゼランの船隊の航海で世界は海で結ばれ、その動きは日本にもおよんだ。1543年には鉄砲が伝わって戦い方が変わり、1549年にはザビエルがキリスト教を伝えた。南蛮貿易もさかんになり、キリシタン大名も現れた。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

